

東都家奉記

秋

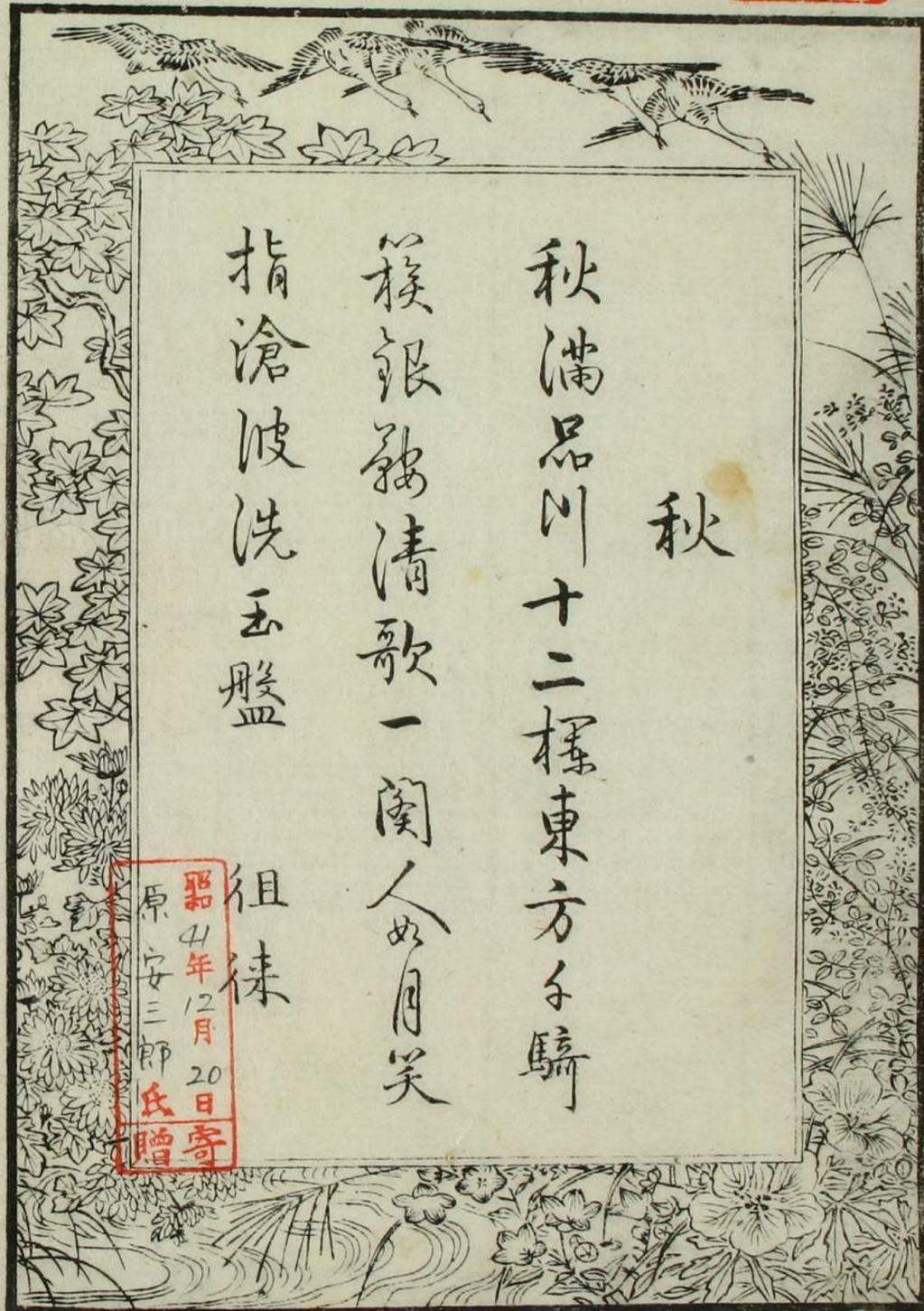
四

第 七

ル 4
5102
4



門ル4
號5102
卷4



秋

秋滿品川十二標東方子驕

簇銀強清歌一闋人如月笑

指滄波洗玉盤

徂徠

昭41年12月20日寄
原安三郎氏贈

江戸歳事記卷之三秋之部

七月

朔日○本所羅漢禪寺施威鬼今日より晦日迄修行 毎日羅漢供養 孟蘭盆経読誦

十六日 廿八日 晦日 大せがき修行川せがき 八分なり 修行中四方のた修群集以

○高月ハ諸寺院水陸念修以有りて悉く祀り 瀧以ありて一二と奉く

○水道橋之傍稻荷社より施威の神甚切多と云ふ 八月二の午の件あり

○同是不動より南中延八幡宮靈宝出拂 冥說法深頼我知は高八幡文津像以我知

二日○煤持出拂今日より十二日までの間晴天と擇ひ屋中の煤と掃ひ又務書衣類

器物木の虫拂を以て高知寺の茶室幕を捲りて高ひりのと云うは高知寺乃交野

日○本所回向院より子住小柄系の別院小於て大施威鬼修行

刑死の族迷魂滞脱の帯よりふと海あり 現吾堂集

日○今初未のより毎夜屋上又短冊竹をふる等整く市中ふハ工とを以てつらつらの

作り物とあり久井とくも又高く出でて人の足りのときを年のちうハハハ

七日○七夕祝儀諸度白帷子にて清礼 今新巻物付物とつて移て二星と

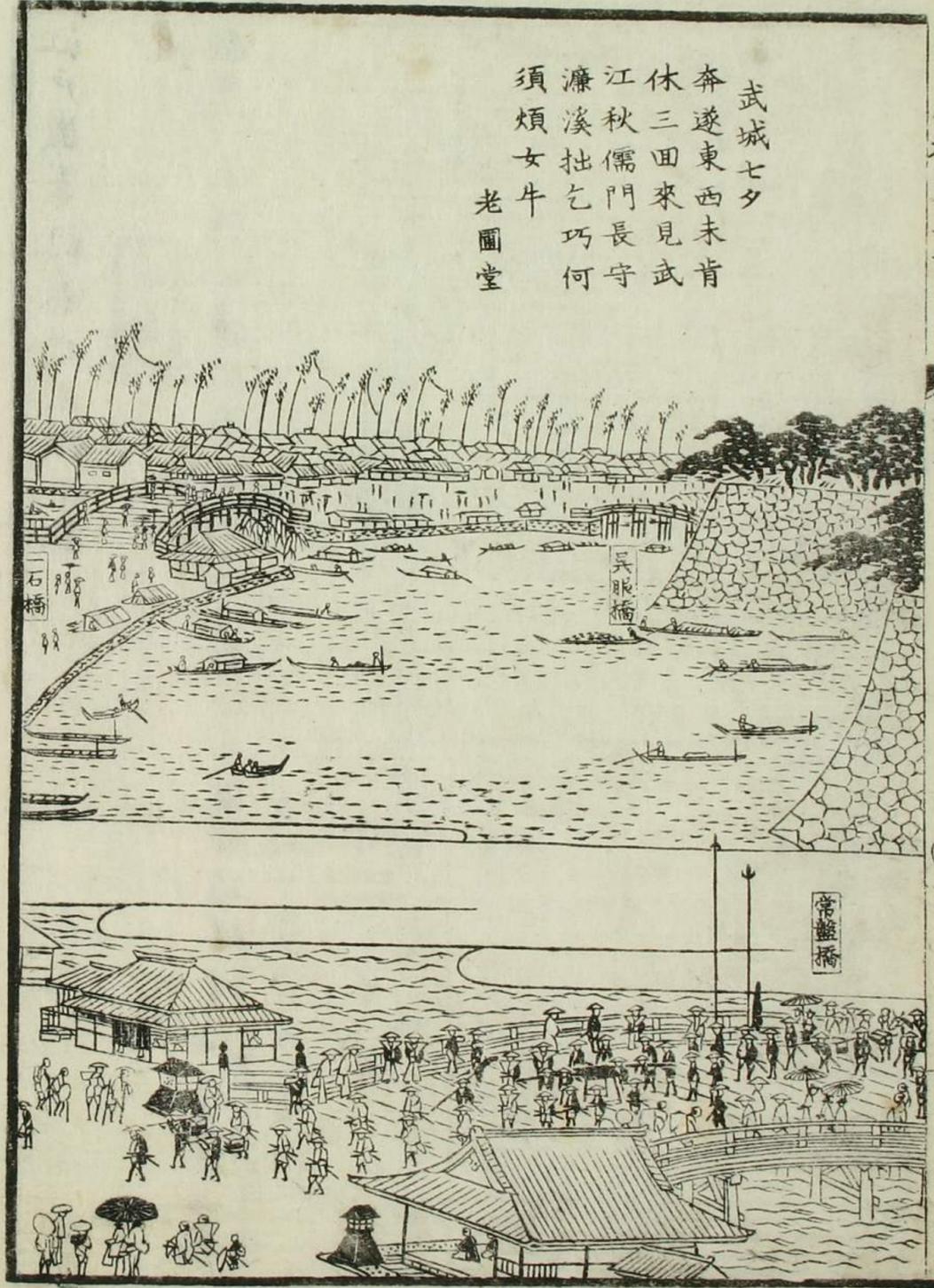


江戸歳事記 卷三



七夕や
 糸の
 井乃
 一温

武城七夕
 奔遂東西未肯
 休三回來見武
 江秋儒門長守
 濂溪拙乞巧何
 須煩女牛
 老圃堂



常盤橋

石橋

天龍橋

武城七夕

答以○吉原遊女者七夕祭を以て一に後や伊戸の娘の法に限は非

○飛戸天満宮七夕祭と連分會。同神宝出拂今日より九日迄あり
釋りし縁起をゆゑりて其公の天女の御太刀管針衝ま筆筆其ま持持。法性坊法性
太閤秀吉公持持筆の又意も種々の神宝あり

○七夕立花會 東本願寺 西本願寺 各教親の立花砂の物あり
地 法人見物とあり

東本願寺の又六角堂の坊の立花も半女も手向る如かり江戸も立花あり

○法華本願寺中神本寺付宝出拂本寺佐別度佐別度長尾及遠物法華せしむ

○法華報恩寺付宝出拂 親學上人回國の發志遠あり

○池上本門寺付宝出拂 日蓮上人筆法花經同筆遺物目録同法華消息
貞宗太刀を余種々の異宝ありて法とあり

○中山法花經寺付宝出拂 宗祖上人筆曼荼羅消息上人の持物その外
法性寺とありしむ江戸より法人あり

○吉原弘法寺付宝 同弘法寺寺付宝出拂○雜司谷法明寺付宝出拂

○夏沢村淨土寺九品佛念 ○本町回向院大施威鬼 明曆二年丁酉正月
十八日十九日法華火

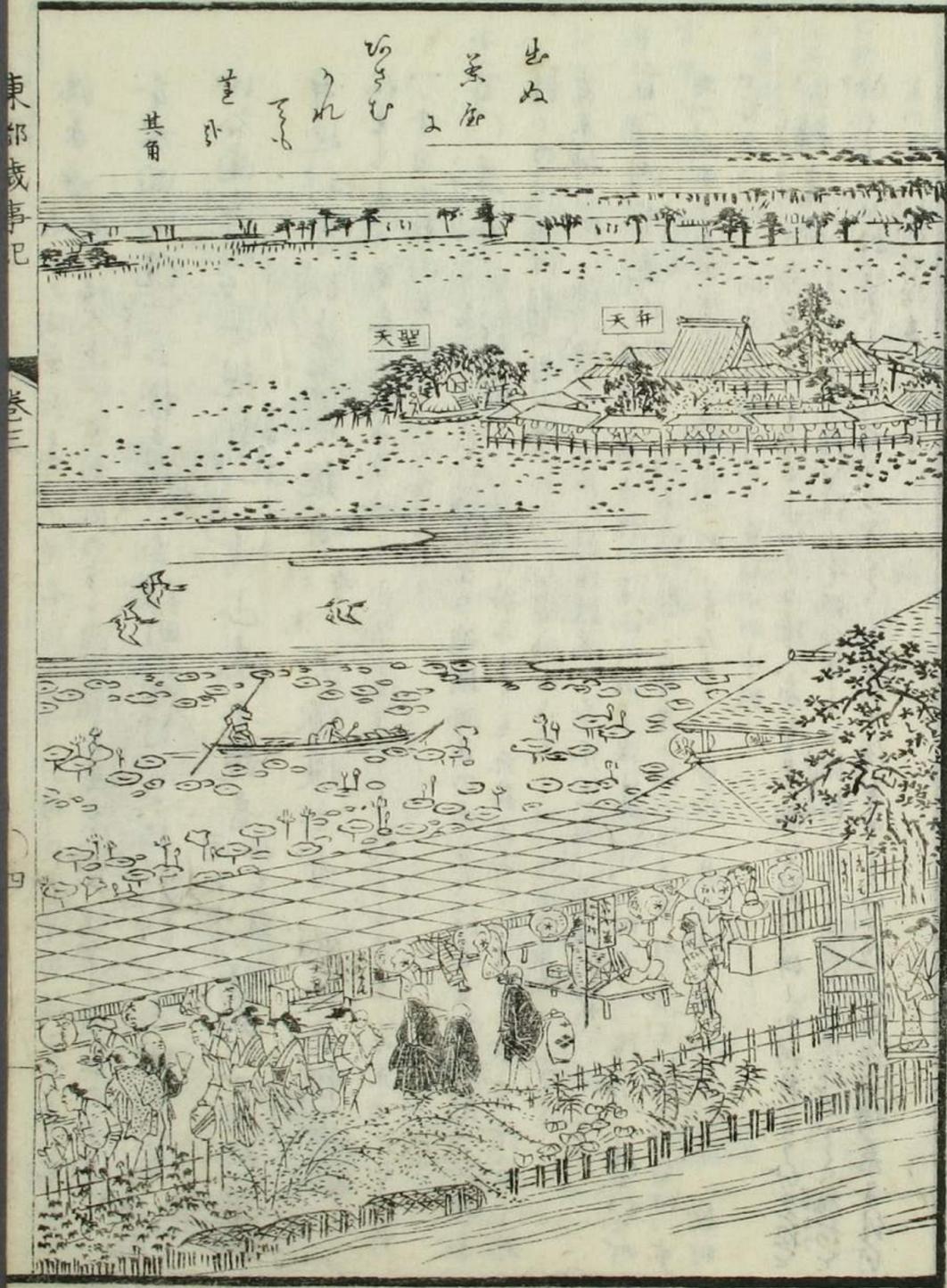
の初焼死溺死の亡魂追薦の爲に祈り所あり

八日○同寺にて佛餉施入の檀主現當兩益の爲に法華修行あり

九日○觀音寺日系今日明日 世儀百六十日ともつゝこの日法つれ

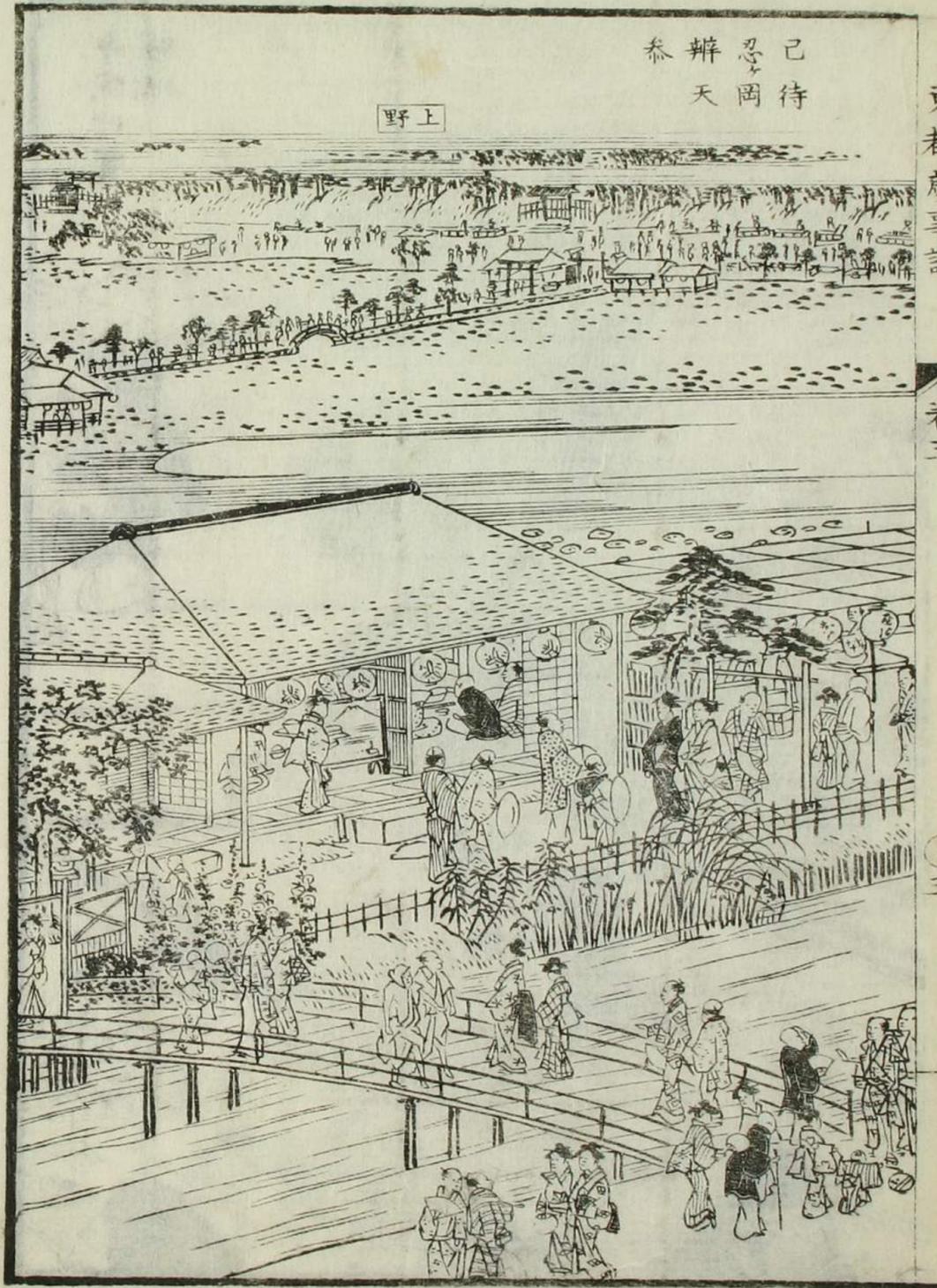
あの日教又向へり





己待
天岡
辨忍
参

野上



沙羊寺 五日の間に在る諸の老若引もきく境内本堂の傍に赤き蜀黍を
南人諸人求て雷難除のち今日本堂にて依法に通社の者多し

本不圓向院一言観音 帳 本浪町四丁目 日本橋 白木屋 呉服店 三田魚籃 津田

四谷南寺町汐干観音 院 青山泰平観音 梅窓院 麹町八丁目栖岸院

牛込神楽坂上瀬掛観音 寺 大塚護玉寺 駒込大観音 寺 光源

何れも赤き蜀黍と南より沙羊寺に同し近來より好まらるるゆへに未由と知りて

十日の朝例年あるごとく花火あり

十日○草市 又益市といひ精製する魂棚飾の布多り何れも町の刻より始り
種々の估物估物小商人系市やうひらぶ袖まきり 作者不知

吉永仲の町 源川橋下 小石川傳通院 本不圓 根津門前

十二日○同市立川 同 日本橋の南小 五玉度小路 人形町今川橋のふ 津田橋下町

同門跡 本不中の石 源川橋下町 本不圓 白心 牛込通町 市谷谷町 麹町

○精霊祭 今日より十六日あひたる近人家聖具棚と磁け餅の估物をうけしを
燎く十六日の送火とて又麻うとてこの力を信守中より法人は社の墳墓を修め

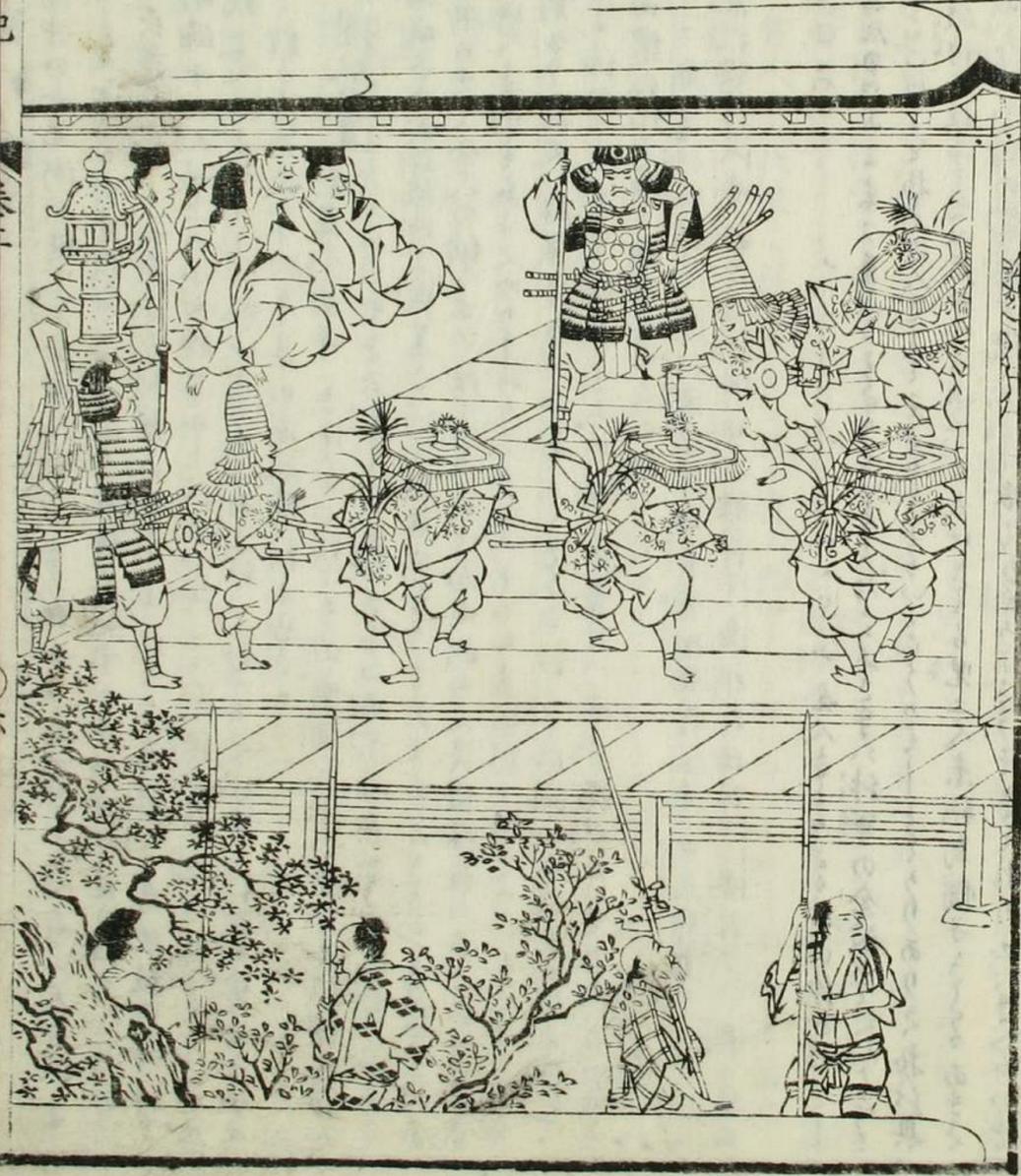
七月十三日
王子権現
社祭禮

古名を以て
あし模
出せり



鶴岡放生會
職人歌合
田樂

うら
うら
中門口乃
うら
うら
あき
うら
うら
或云
後普光園
攝政



其二



長春殿聖言

五



夏者歳事言
 卷三

盆中往来

の圖

五元集

桐油
 よろめ
 一俵の油
 一俵の油
 と病
 の有云價
 宝珠と洗
 せり
 おり
 衣
 玉
 三角



盆迄ハ

秋まき

門の

灯笼

電

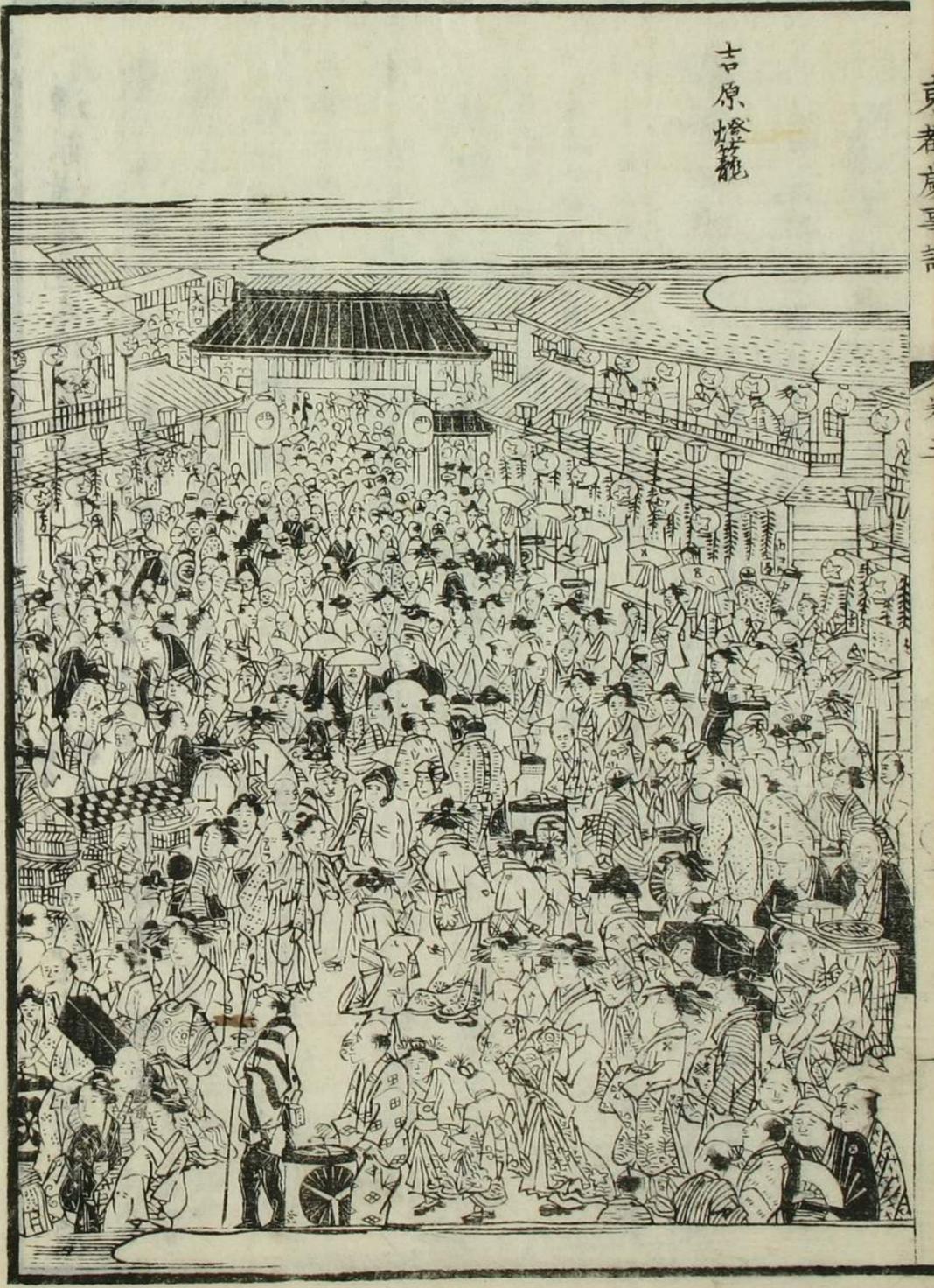


曲阪長堤
 起晚埃
 無人不道
 觀燈回
 黃昏火點
 家々樹
 一夕秋風
 花盡開
 無名氏



東都歲事記
 卷三

吉原燈籠

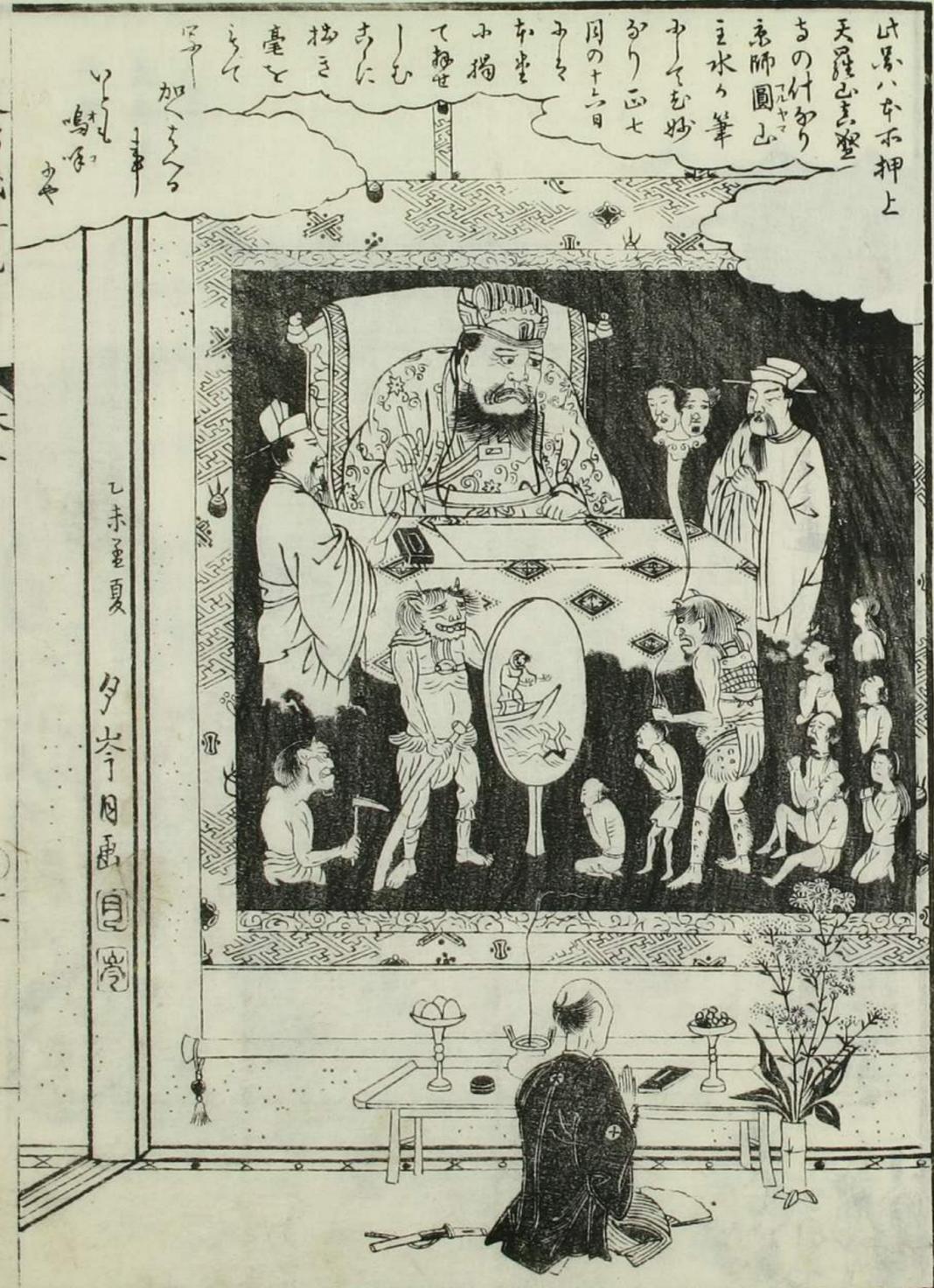


東都歲事記

○同麟祥院從二位春日局影像と并せし正月十六日のこと
 ○深川寺町法後と施威鬼○十梅丸象古虫拂律師志等の題目とせし
 ○川に長光寺ありと聞帳

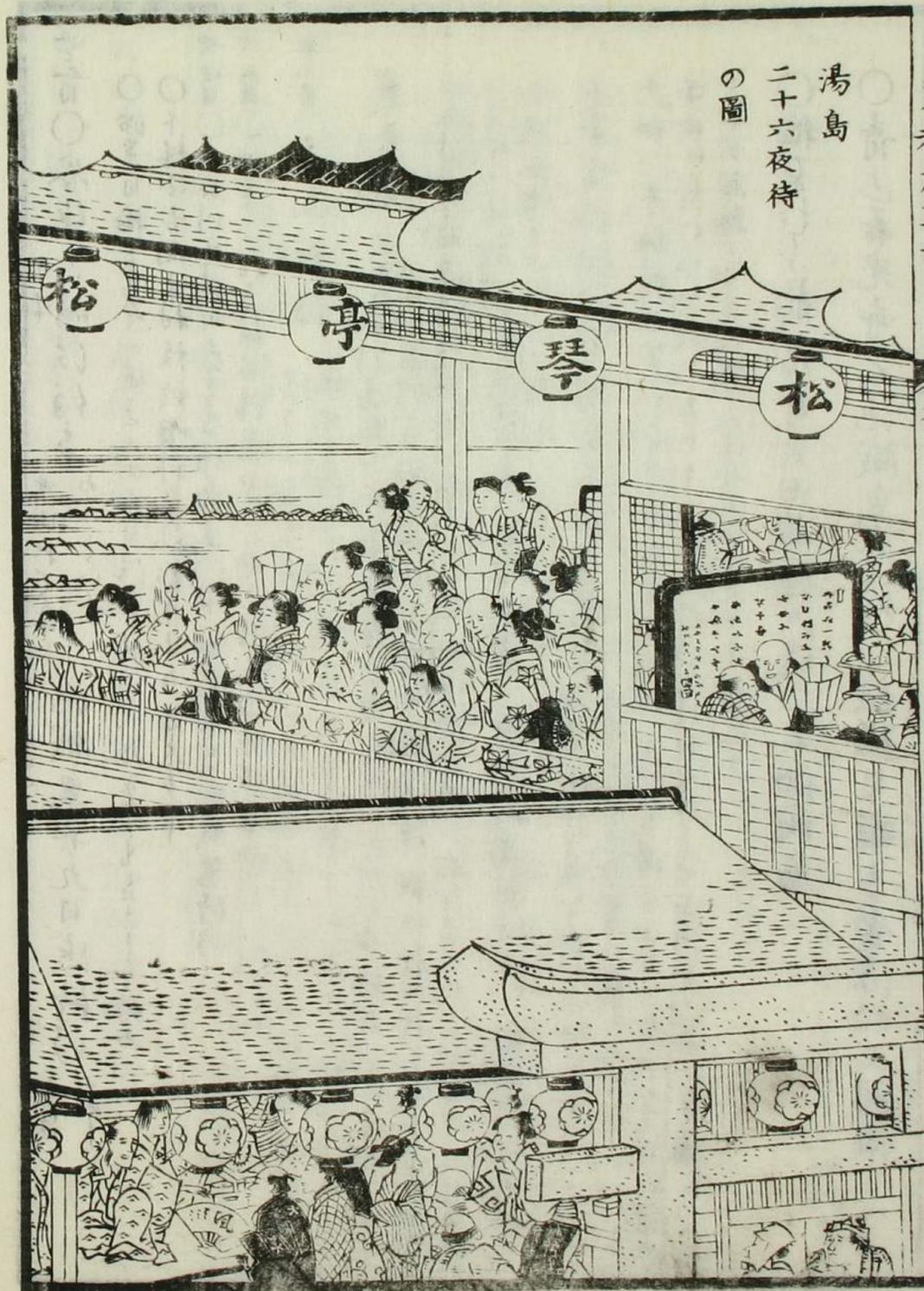
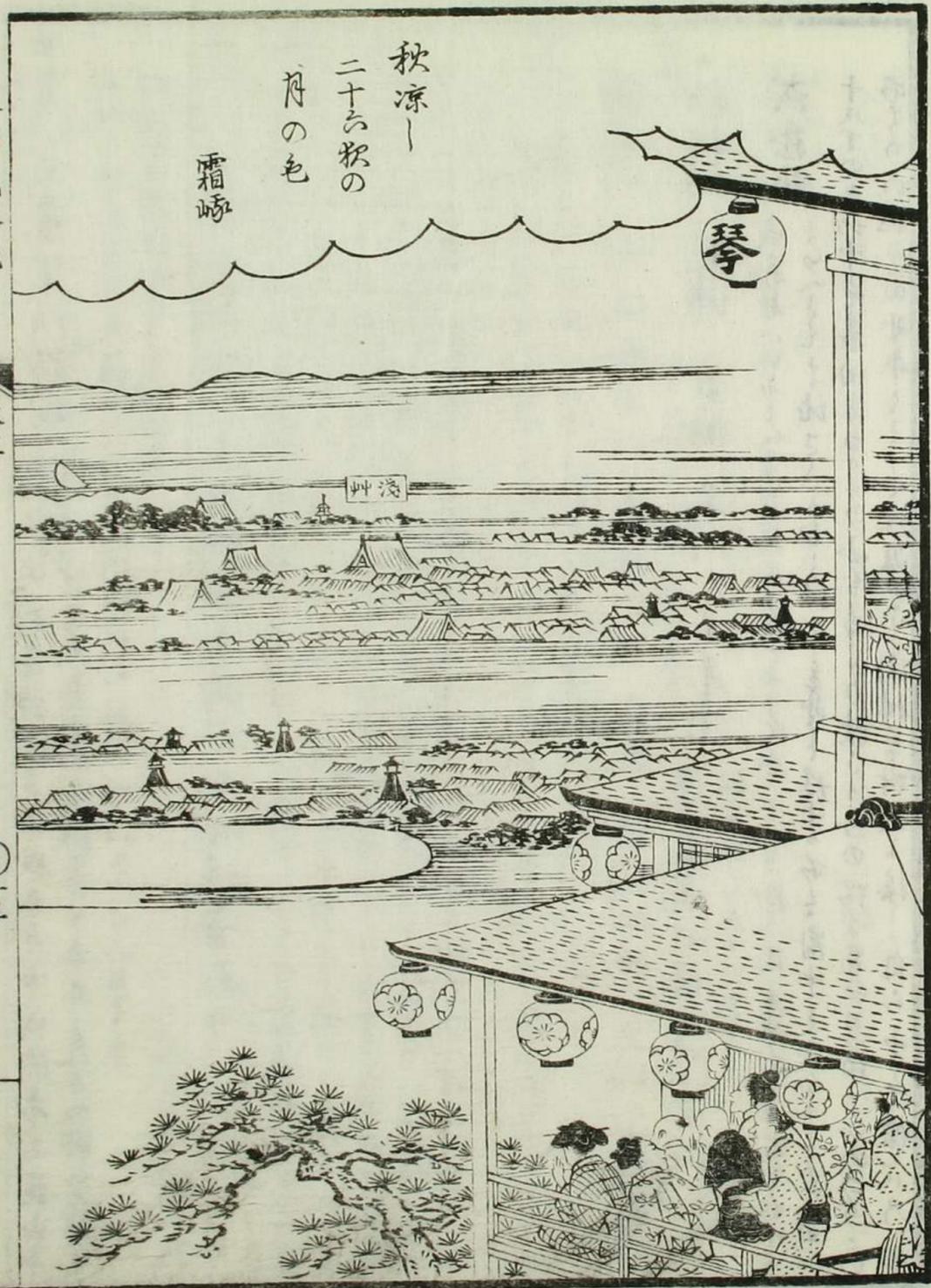
○同慈休天寺孫陀經子部母六日迄修り
 音樂あり乃依日毎小舞
 其の旨と云ふと如くは
 開山祐天大傍心八十二支等身トウシニの表彩像○同八十支表彩像○同八十二支除障表彩像○
 同遠骨舍利○同舌根○銀毫七太刀身代名号○根牙落の名号○火中出現の名号○施障者
 名号○火車出現名号○火防者○開山二十支累女海邊の表彩○開山累海邊の如法衣廿六
 条袈裟○伏誣表障木○慈休天皇御作阿訶陀如來○中納言感得阿訶陀如來○聖德太子
 心等名号○醍醐光佛聖德太子自慈心舍利○雲龍阿訶陀如來○收筆律師表障○圓
 光大師自能表彩○同筆紺紙令泥十念名号○二枚起清文結為聖光上人等○開山表彩
 の像祐天傍心○蜀紅錦九条袈裟表彩○藕糸以束袈裟○玄宗皇帝親箱表彩の像○開山表彩
 地蔵等の像外佛画像佛像の類多し

○夏沢村淨真寺九品佛 什寶出拂十八日まゝ拜とあり
 其宝と云ふ
 其小十と云
 記を普く世人の知るあり○芝枯大名号中九支表彩十支○加々佳太子表彩名号○以
 法大師等名号○同等金泥光明名号○若守大師等名号○中納言蓮系名号○同筆
 稱讚淨土經○文覚筆綴若心經○開山杖○咸陽宮瓦觀○光明佛障○阿憶上人等二河
 白丸の表○同等若守大師心彩○同等圓光大師心彩○以庵和尚等障○九不淨土大
 曼荼羅○阿憶上人等名号○圓光大師等名号○亡者の文集度の家士堤勅在り
 が先妻の死後妻と云ふまゝに八回法若奈某寺開山阿願上人と稱して化度と



此景ハ本不押上
 天羅山志堂
 さの付かり
 衣師圓山
 主水々筆
 中々む妙
 かり正七
 月の十二日
 中々
 本堂
 小獨
 てお世
 しむ
 あり
 揚三
 臺と
 加々佳
 鳴和
 加々佳

乙未夏
 夕六日月画
 自
 〇





後拾遺集
 我あり
 秋の
 らせり
 に見よ
 人よ
 関白前
 左大臣



寺島村百花園
 秋の七艸



江近通溝水
 城頭魚自肥
 秋風吹一夕
 處處釣鱸歸
 南郭



宝永の頃南口の右史番より始りたりと云々又青既と云々も子縁あり
 ○元禄の頃近江良郷小三流の月見とて和歌大川へ出たありと云々は和歌の
 官のゆゑと傳て花火と云々ありけりと云々享保の頃和歌の和歌のゆゑと云々は和歌の
 江戸砂子拾遺と云々あり○中右近麻布の本本芋洗坂と云々和歌ありて八月十六日
 和歌市と云々芋と南へ芋と和歌ありと云々芋ありと云々和歌ありと云々和歌ありと云々
 和歌月やと云々和歌ありと云々和歌ありと云々和歌ありと云々和歌ありと云々和歌ありと云々

八幡宮祭禮

富賀岡八幡宮

別当永代寺 十四日より始りて和歌市に寛永
 二十年癸未より始りて古くは八年毎に流備り
 ありと云々文化は和歌市より隔年小本和歌一の橋の心旅布へ和歌ありて和歌市と
 和歌あり和歌子の町より和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と
 止む今和歌市類書の和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と
 あり和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々
 和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々

- 初番 霊岩寺門前 一番 浦辺大工町 同 蛤町 二番 清澄町 三番 依賀町 四番 和歌市 五番 和歌市
- 六番 富吉町 七番 諸町 八番 大橋町 九番 中橋町 十番 小川町 十一番 和歌市 十二番 元本場町
- 十三番 本場町 同 平野町 伊勢崎町

○永代橋向和歌市番組

一番 和歌市 二番 和歌市 三番 和歌市 四番 和歌市 五番 和歌市 六番 和歌市 七番 和歌市 八番 和歌市 九番 和歌市 十番 和歌市 十一番 和歌市 十二番 和歌市 十三番 和歌市 十四番 和歌市 十五番 和歌市 十六番 和歌市 十七番 和歌市 十八番 和歌市 十九番 和歌市 二十番 和歌市

西久保八幡宮

別当普門院 毎年和歌市産子の町と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々
 隔年踊り和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々
 町名と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々

市谷八幡宮

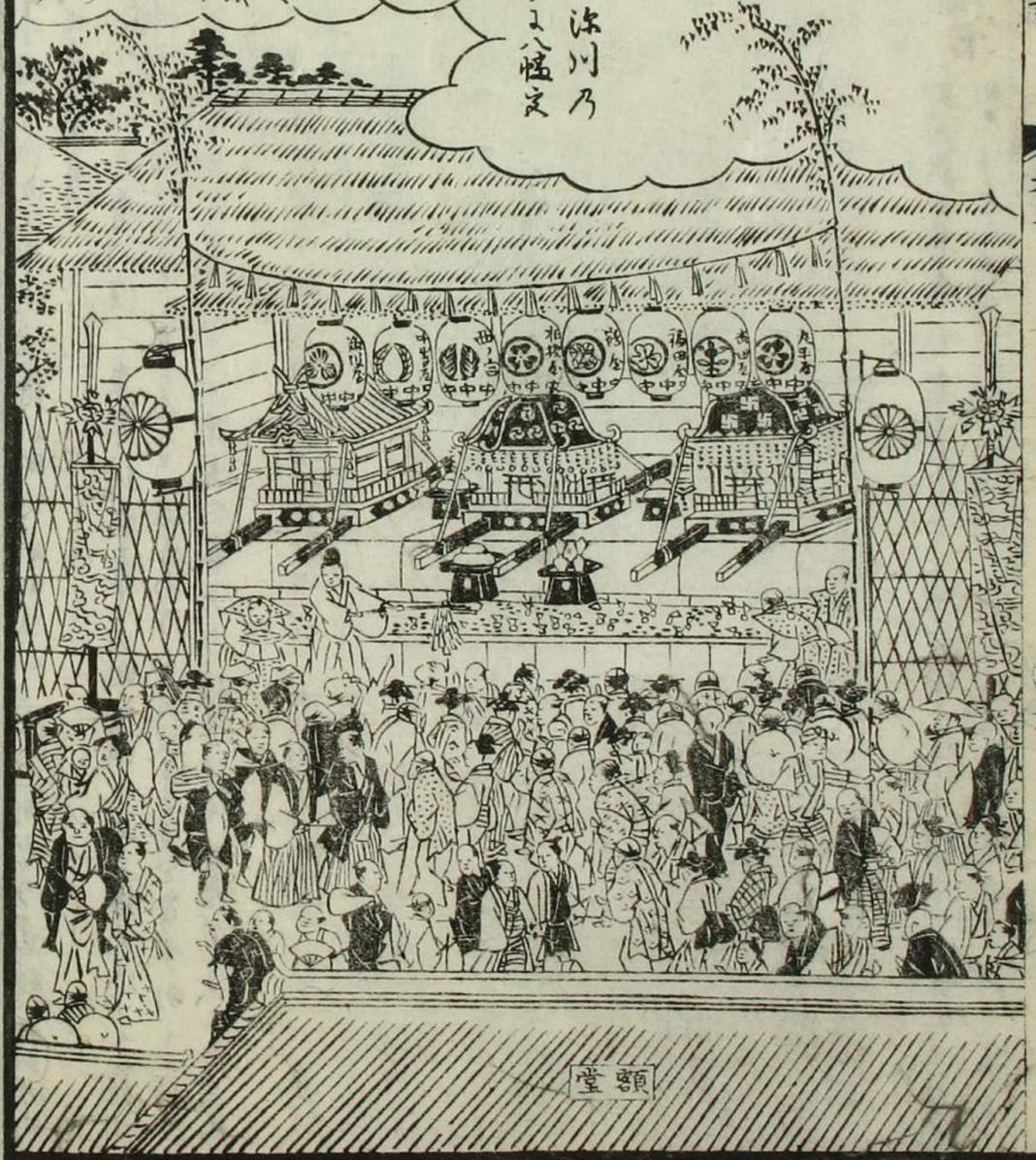
別当東田寺 今日放生會あり安永二年年迄八隔年和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々
 和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々和歌市と云々

- 一番 市谷 二番 同本村町 三番 同片町 四番 同柳町 五番 同甲良屋 六番 同大元
- 七番 同和歌市 八番 同和歌市 九番 同和歌市 十番 同和歌市 十一番 同和歌市 十二番 同和歌市 十三番 同和歌市 十四番 同和歌市 十五番 同和歌市 十六番 同和歌市 十七番 同和歌市 十八番 同和歌市 十九番 同和歌市 二十番 同和歌市

八月十五日
富賀岡八幡宮
祭禮

視吾堂集

武津のひんうー津川乃
流と清きわたりよ八幡宮
いそれおつゝま
あのおのつゝま
水代清とわんより
八十の致系持と
くかへつゝま
中又遠く江城以
のせぬ、清陽令殿
たりをく清と乃
くふ船、漢のそり



堂額

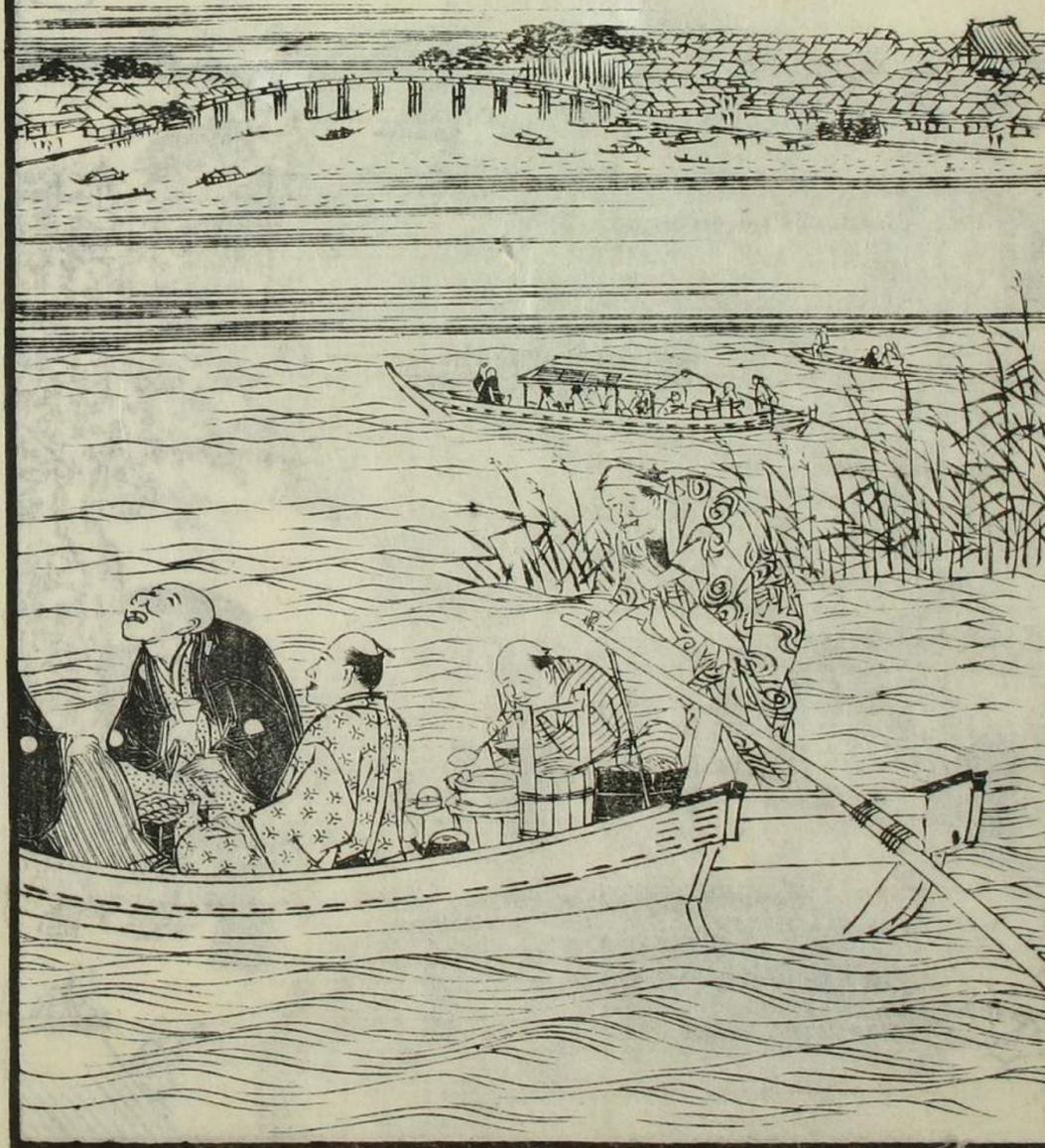
くとうくうんま
わら男山ののりけ
くうしつと和光まふ
ねりまればゆい
たふらね
霊地なる

岩清あ
幸
流ま
東路よ
む
水き代乃
ふはせ
名
惟足



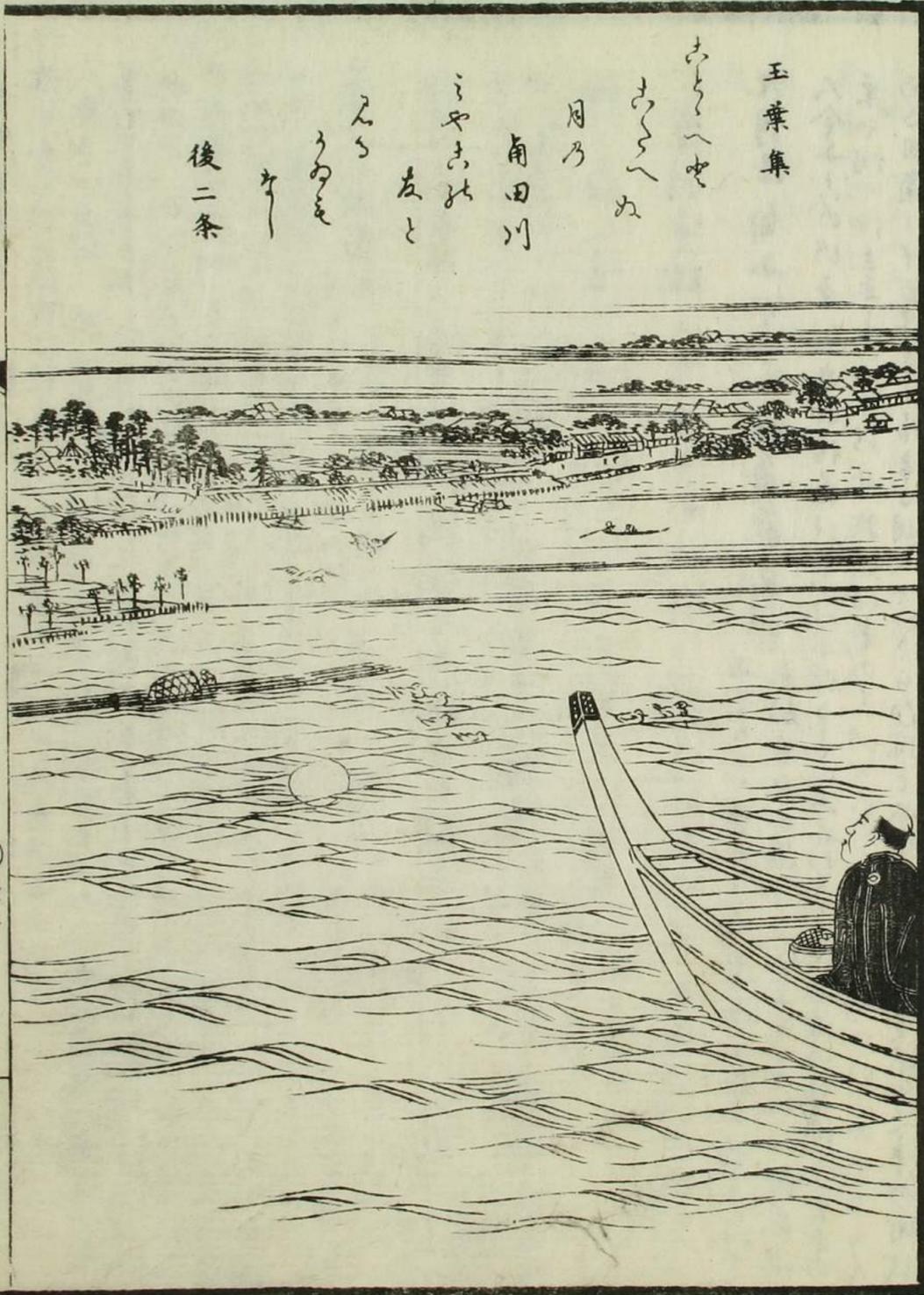
良夜墨水
看月

墨水連天瀾秋
風二總開潮平
明月湧山近白
雲來病癩人情
變歸心酒態哀
窮愁書未就短
髮虞那催
金華



玉葉集

六月一也
六月一也
月乃
南田川
さやまは
左と
んち
うのま
ち
後二条



武藏野駒牽古事



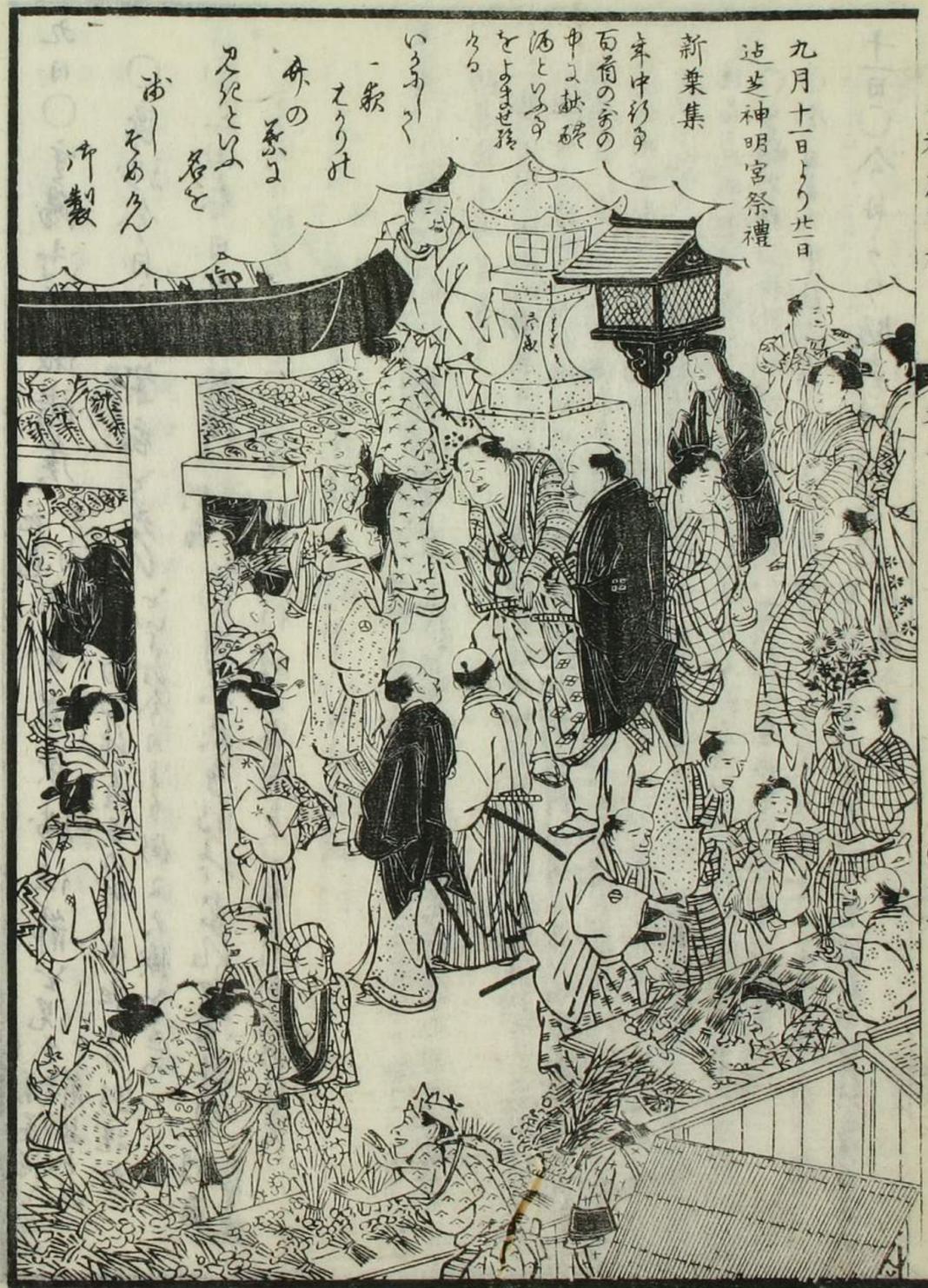
後撰集
秋務の
立杉
約と
むく
のり
あひ
あひ
忠房



九月十一日より廿日
辻之神明宮祭禮

新葉集

本中仍中
百首の家の
中へ秋磗
酒といふ
をよませ
る



一歌
えうりれ
舟の
葉よ
又此といふ
名を
あしめえ
河製

○今日同日論言の稲荷祭礼 同本
安泰も坊

十二日○日蓮上人御影の儀 又永八年九月十二日上人相州影のいりて影と避すの
影に多くは戸葉をまより法す者多し ○半巡様も町田後より稲荷会衆も入るるは
外法も流るる

○之芝居見の世界 之座より小栗尾芝居本戸に又ハ太史元の家ニ挑灯と出
まきお太史元ハ五夜座がら女形狂言権者取付帳元と限
るて顔見世の趣向と法をむ化すとさるよりいへり

十日○肴月 後の月宴といふ衣被のいふも 桑枝豆すきの花も月と休是は神中見
す 神田の肴祭は尾筋武家町屋ハ肴棚と稱へ挑灯と出は

○神田天満宮同宴和分連舟未無り 別当様は泉養も舟村祭といふ正月六日の如
き月ハ別て賑ひ十一日より多活多し

○源川六間堀神明宮祭 為月ハ別て賑ひ十一日より多活多し

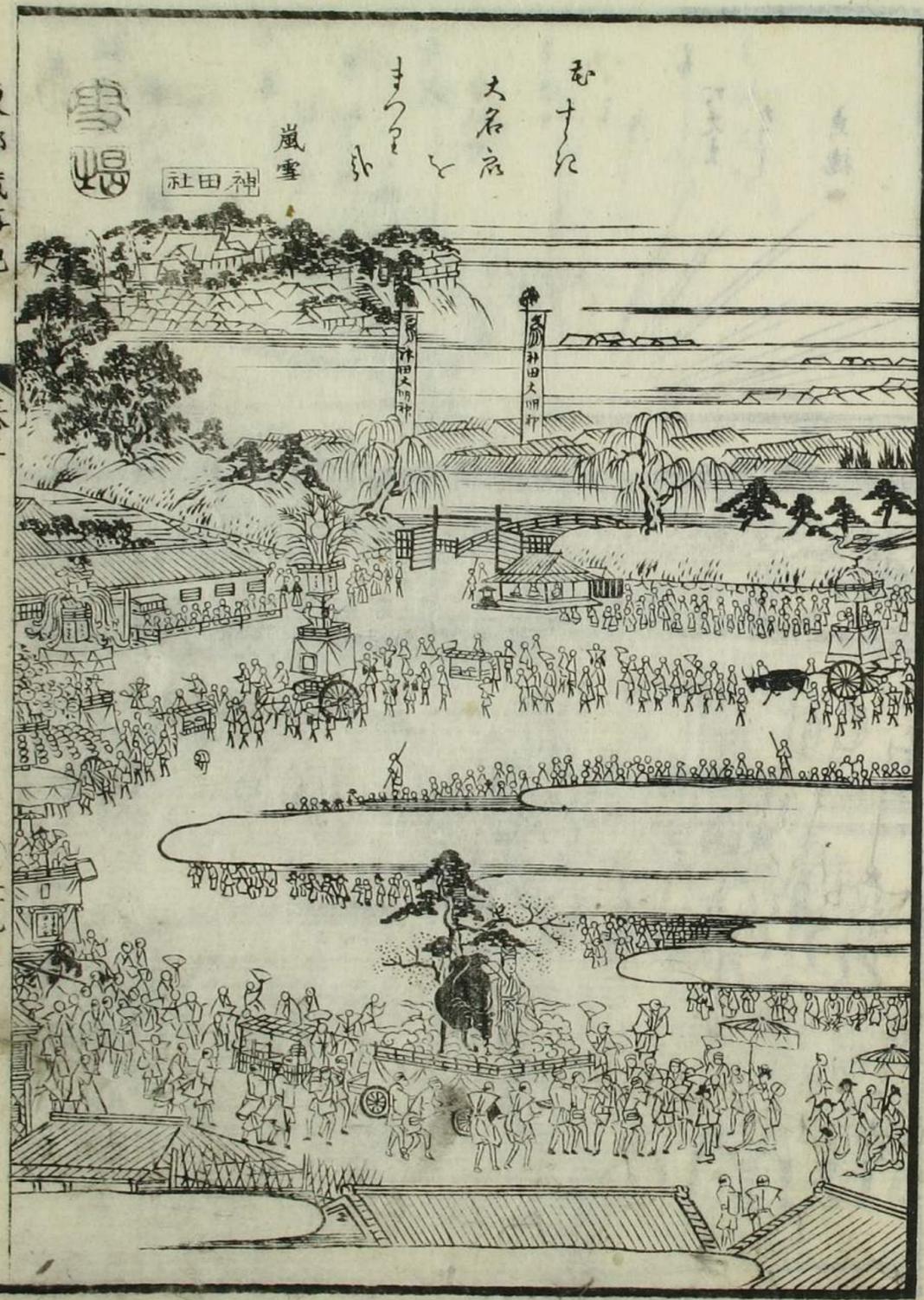
○堀の内妙法寺御師用帳 ○沙菜どぶ店を遠く御師用帳 ○難司谷室嶽も御師用帳
○高田本松寺終儀御師子巻陀羅尼修り

十日○神田祭礼の節目あり 世俗お宮又修りといふ祭礼勢揃あり行列と稱へてを
と稱りあり 是といふんとして遠をのき居街は元後を今日
及筋の表町町屋ありと實客といひく養意のりといふ街の賑ひ等儀も及ひけり
社祭も多し御師用帳は多しありといふ町ハ新挑灯といふ大帳と衝は立酒樽蒸熟飯
積り酒不補理を○今日未刻神を 社祭 積り布衣白丁あり権者といふ本社
於て祝詞と奏し神本無りあり○沙菜日論言といふハ高社の祭りといふと後々の神

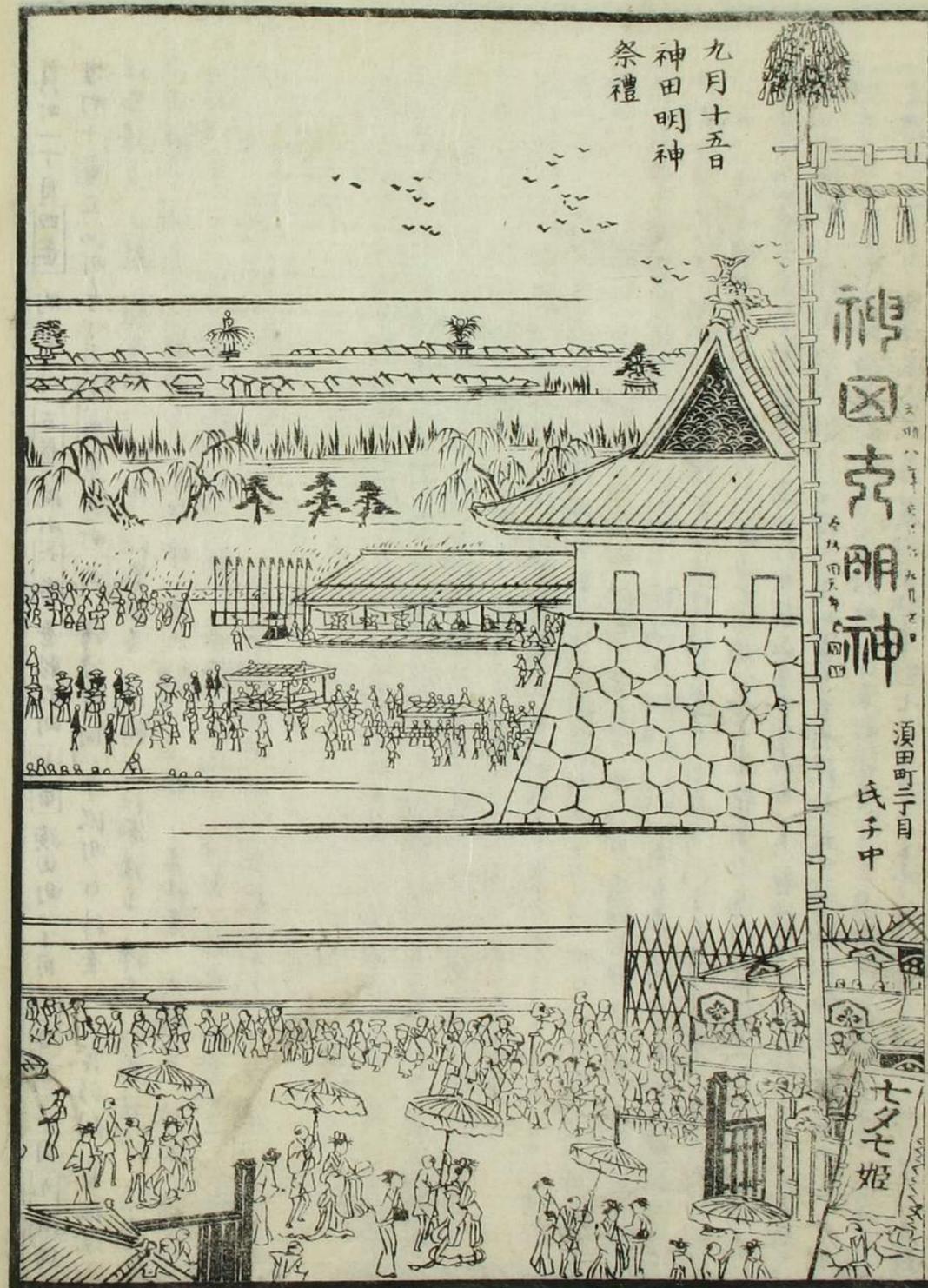
東部歳事巳

卷三

三七



九月十五日
神田明神
祭禮



神田明神

須田町子目
氏子中

七夕七姫

東部歳事巳

卷三

三七

へ出宝町を丁目よりを丁筋遠岸橋と渡り湯島の河原より聖堂根の坂とより社
へ還来ありは新産子の家より新挑灯と云ふ一舟の先あつてく改次と休まらるる
形々々々無のいささか目と驚く

寛文二年壬寅九月江東吟葉 平岩仙桂作
繁華男女集随喜仰神田高下雕甍疎收排朱闥鮮擲錢強願福擊幣

且求全聞説親王蹟嚴靈經幾年

○同社社奉結 今夕一享保のあらまて八景の年十六日又十日は無は成八日ま
らばもよき以て觀世金春室生令別の位座より出江戸中核家別ありそま結る
集ひ一う同くはより絶る

小桑代祀巻四云坂より東に國邊一略結る社の家は江戸神田の神田限よりそれより
とゆれは神田の神田は我朝は結始より神田の神田は結始より神田の神田は結始より
ゆつら八百方神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一
結式三番よりゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より
大の神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一
神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一
我州と流ありは朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一
ゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より
下は江戸と流ありは朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一
より家生をまへて傳りて凡百年程代つてゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より
おまをてゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より結式三番よりゆつら出来より

○神田祭

隔年祭礼乃休となり産子の町くうげ祭と号して新挑灯
又種々の飾りけしめあり十日目より見物の人來るまじく社奉結多し又町へ
出は人形と飾りあり

○牛車前王子権現祭

別當最徳寺丑卯己未酉亥年隔年小半時の越後寺
あり文政十亥年迄ハ神田二基十三日より小半時石原
新町の神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一

- 一番 本不花町 二番 同長崎町 三番 同吉田町 四番 同吉田町 五番 同吉田町
- 六番 同吉田町 七番 同吉田町 八番 同吉田町 九番 同吉田町 十番 同吉田町
- 十一番 同吉田町 十二番 同吉田町 十三番 同吉田町 十四番 同吉田町 十五番 同吉田町
- 十六番 同吉田町 十七番 同吉田町 十八番 同吉田町 十九番 同吉田町 二十番 同吉田町

○下谷金堀村三嶋明神祭

神田一基と流を神田の神田は朝念ぐ一神田の神田は朝念ぐ一
村の祭高月八町の祭あり ○流をすまじく神田の神田は朝念ぐ一

○子住小橋系飛鳥明神祭

別當神田寺 天王のお殿へ ○寺田村白鷺明神祭
出は後り物踊り不出は神田

○牛込築去明神祭

別當筑紫院子亥辰午申戌隔年あり
元辰田町の産子ありて今娘へり

○萱場町薬師如来開帳 ○白金猿町維子宮祭

女日 ○小石川白山権現祭

子宮辰年申戌年隔年産子の町より踊り花中... 小石川産子町... 小石川産子町... 小石川産子町...

○根津権現祭... 別当昌泉院... 小石川産子町... 小石川産子町... 小石川産子町...

○青山原宿町熊野権現祭... 別当性院... 産子の町... 産子の町... 産子の町...



送りて人の足とむ

○高田氷川社二十六座神楽○駒込船行も大山岡本不動も閑帳

○半込系町報恩も不動閑帳○入善教宝院鬼子母神子巻陀羅尼あり

○細橋よりあり法舎中少少一向宗あり無派あり今日橋の内築地を新築の由法うて

報恩修修あり

廿九日 ○滋谷氷川明神祭 御撰無引 川崎 宝泉寺

物景

菊 ○ 五冬より日 六日目をあ 菓鴨漆井辺桂木屋園中 寺崎村百花園

○外本和辺四谷吉心辺の桂木屋園中少多一高比の菊の盛放て来りと云り○文化乃末
菓鴨の里小菊花ももて人物多歎何とまきとやうの形と造る多時中して江戸の
も法日毎に群集して多しうう酒肆茶店とて杯も去り河へぬと極ひ一以父ととりふ
びとありめでありきしも幼き頃の身はて今廿と廿の昔と云かりぬは後二三年よりてあの手池
よりされとあまの花壇に今ふうとて来毎小盛なり
むうさねのびくとといふ今江戸小白き菊の輪少く黄金目貴の如くふくいとありく白
きとむきい菊といふてとあるはははは時より出るううとてりむきい股はる井戸の辺ありこの
辺又凡の名物ありて夏日都下小出

江戸歳事記卷之三畢

